

この時代に私はどう生きるか

北海道
北海学園札幌高等学校
新名 ひなた

教育とは1種の洗脳である。戦前の日本の教育がそうであったように、正しくても、そうでなくても、教育の形によって人の心はどんな形にもなる。つまり、親や教師のように影響力が大きい人間が正しい教育を行うことができなければ、その教育を受けた子もまた大人になってから正しい教育を行えず、道徳心の欠如した人間は徐々に増えてしまう。この状況を放置したら、少しずつ秩序のない、まとまりもない、自己のためだけに生きる人が増えていく社会になるのではないだろうか。

このような社会を変えていくためにも、正しい道徳教育が必要である。正しい道徳教育を十分に行うことができれば、人として正しい行動ができる人間が育つ。今の状況を打破するためには、道徳心を育てる教育を手厚く、かつ正しい形で行っていく必要がある。

では、正しい道徳教育を行うために、どのような手段が有効なのだろうか。私は少林寺拳法こそ、今の時代に必要な武道であると考えている。なぜなら、少林寺拳法は護身としての技術はもとより、確固とした教えがある武道だからだ。今こそ、少林寺拳法の大切な教えを社会に大きく発信するときである。

少林寺拳法にはたくさんの教えがあるが、その中でも「自他共楽」という言葉こそ、今の社会や教育現場に浸透させるべき素晴らしい言葉である。思いやりの心や、相手の立場に立って物事を考えることが、自分の幸せにも繋がるという少林寺拳法創始者 宗 道臣先生の考えが広まれば、幸せな人生を歩める人がもっと増えるはずだ。では、それを実現するためにはどうしたらよいのか。私は自分の体験をもとに具体的な方法を考えた。

私は武道的な面に惹かれ少林寺拳法を始めた。しかし、少林寺拳法が創始された背景を知った今は創始者の教えが少林寺拳法の根幹となる部分だと考えている。今、少林寺拳法の技術を利用した介護職員初任者研修を開講したり、お年寄りや体の不自由な方でも取り組める健康プログラムを実施したりしている。このように、多くの入り口を設け、創始者の教えとは別の目的や魅力から少林寺拳法に関わっても、最終的には教えにたどり着くというシステムができれば、創始者の教えを多くの人に知ってもらえることができる。創始者の教えは今の社会でも見習うべき考え方であり、賛同者がより一層増えれば必ず社会に変化をもたらすことができると考えている。

社会の現状を変えるためには、創始者の教えをより多くの人に発信する必要がある。そのために私たち少林寺拳法の拳士は、技を磨くこともさることながら、日々勉強し、確かな自信を持って、教えを伝えていくべきである。この社会を生きる人々皆が「半ばは自己の幸せを、半ばは他人の幸せを」という言葉を胸に生きることができたなら、創始者が言った理想境が実現のものになると私は思う。